

地域経済循環の取組について ～地産地消と県外からの外貨獲得～

総 合 政 策 部
環 境 森 林 部
商 工 観 光 労 働 部
農 政 水 産 部

1 地域経済循環について

本県の産業が持続的に発展していくためには、県外からの需要を取り込み外貨を獲得する一方で、地産地消による取組を推進することで県内企業相互の連携強化や取引拡大、原料の県内調達や県産の商品・サービスの県内消費の増加などにより地域内の経済循環を促進し、外的要因の変化にも柔軟に対応しうる自立性の高い産業構造の構築を目指していくことが必要である。

新型コロナウイルス感染症の影響によって、県外との人やモノの動きが制限される状況が続くなか、外貨の獲得とともに、地域経済を循環させる地産地消の取組が一層重要性を増している。

2 地産地消の取組事例について

(1) キャッチフレーズ（総合政策課）

広い意味での地産地消を推進するため、地元の宮崎を愛することが地産地消につながるという趣旨のキャッチフレーズ「ジモ・ミヤ・ラブ」を昨年度決定し、積極的な活用による地産地消の普及・啓発を行っている。



(2) 企画展（総合政策課）

県有施設や商業施設などで地産地消に関するポスター展示やパンフレット、ノベルティグッズの配布等を行っている。



(3) ディスカバー宮崎ホームページ等による情報発信（総合政策課）

ディスカバー宮崎ホームページやフェイスブックにより県内観光関係情報やイベント情報、応援消費情報等を集約し、幅広く発信している。



(4) 県民の具体的な行動例

① 知ろう

- ・県内には様々なモノや製品・サービスがあることを知ろう
- ・県産品を消費・利用することが県内雇用の維持や地元の応援に繋がっていることを知ろう など

② 使おう

- ・県産品や地元の製品を進んで購入しよう
- ・地元商店や商店街を利用しよう
- ・通勤、通学、出張などで積極的に公共交通機関を利用しよう
- ・住宅を建てる際は、県産の木材、建設資材を使おう
- ・県内、地域のイベントや行事に積極的に参加しよう など

③ 広げよう

- ・宮崎の「美味しい食」などの魅力について、クチコミやSNS等で広げよう
- ・地元を離れている親族や友人等に、季節の花や旬の食材といった地元産品を贈って、笑顔を広げよう など

○ 県民意識調査

項目	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度
県内で生み出された商品やサービス等を意識して、できる範囲で利用している人の割合	67.8%	64.7%	66.0%	76.4%	81.2%

<毎年度2月に実施する県民意識調査より>

有効回答数 R元 : 1,348人

(5) 「みやざきの食と農を考える県民会議」が展開する食の地産地消活動

(農業連携推進課)

「みやざきの食と農を考える県民会議」では、県民の豊かな食生活を実現するため、自然の恵みや生産者への感謝の心を育む「食育」と、本県の豊かな食材を通じた「地産地消」の取組を一体的に推進している。

具体的には、「農水産物直売所」へのアドバイザー派遣による魅力のある店舗づ

くりや、本県食材を活用した加工品やメニューの開発、さらには各種イベントを通した啓発活動等を展開しながら、地域の経済循環活動の拡大に努めている。



直売所店舗巡回の様子



県産野菜時短レシピの開発

3 県外からの外貨獲得の取組事例について

(1) 耕種版インテグレーションの取組（農業連携推進課）

「株式会社ジェイエイフーズみやざき」（本社 西都市）は、独自の生産管理システムの活用や、生産・加工・販売まで一体となった工程管理（インテグレーションモデル）の構築により、効率的で高品質な冷凍ほうれんそうを製造・販売している。（平成23年8月工場稼働 令和2年5月現在 契約農家 63戸、栽培面積 111ha）

また、平成30年には、ほうれんそうでグローバルGAPを取得するとともに、同年、冷凍野菜としては全国で初めて、冷凍ほうれんそうを「機能性表示食品」（ルテイン）として商品化し、付加価値向上に向けた取組を展開している。

県ではこれまで、耕種版インテグレーションモデルの構築に当たり、加工用ほうれん草の栽培技術の確立や収穫機等の導入を支援するとともに、機能性表示食品の商品化に向け、成分分析や表示・販売等についての指導・助言を行っている。



工程管理を行うフィールドコーディネーター、ほうれんそう収穫機



機能性表示食品
（商品名：宮崎育ちのほうれんそう）

(2) キャビア産業の持続的な成長産業化の取組（水産政策課）

①宮崎産キャビアを世界へ届ける3者分業体制

県と養殖業者とジャパンキャビア(株)の3者による分業体制を構築し、キャビアの安定的な輸出を推進。



②宮崎産キャビアの輸出

平成29年3月に国産初となる輸出を開始（香港、アメリカ、台湾、シンガポール）。

③県外有名店とのコラボ商品開発

ミシュランガイドで三ツ星を獲得している県外の懐石料理店等と共同で「熟成うま味キャビア」や「昆布出汁キャビア」を開発。

④宮崎キャビアの販売量・金額と輸出量・金額の推移

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
販売量(kg)	15	60	170	254	266	364	379
販売金額(百万円)	8	32	66	93	104	128	118
輸出量(kg)	—	—	—	3	1	17	26
輸出金額(百万円)	—	—	—	1	0.4	5.4	6.6

（３）付加価値の高い食肉加工・販売の取組（畜産振興課）

株式会社ミヤチクは、県内2か所の食肉処理工場（高崎、都農）において、食肉処理と部分肉製造を行い、県外8か所を含む11の営業所で販売している。また、県内3か所の加工センター（宮崎、高崎、都農）と4か所の直売所で精肉・加工品の製造販売及び県内外6か所でレストラン事業を行うなど、県産の牛・豚を地域内で処理・加工し、国内外へ販売する地域商社的な役割を担っている。

特に、平成31年3月には国内最新鋭の食肉処理工場（新都農工場）を整備し、同年8月には宮崎牛をEUに初出荷することができた。海外での県・経済連と三位一体となった商談会への参加や現地プロモーションを進めてきた結果、輸出量は年々増加している。

また、加工部門については、県産食肉を活用した精肉商品やハム・ソーセージ製品等付加価値のある収益性の高い商品づくりを行っており、近年では、カタログ販売やインターネット販売等の需要が増加傾向にあることから、現在、宮崎加工センターの生産能力を拡大する増強工事に取り組んでいる（令和3年8月完成予定）。

これらの取組が本県畜産経営の安定につながり、地域経済の活性化も図られている。

○新都農工場



○オンラインショップサイト

○牛肉輸出実績

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
輸出量（t）	86.2	105.8	143.8	165.3	245.1	304.8	336.6

（４）県内中小蔵元による県産本格焼酎の米国輸出の取組（オールみやざき営業課）

県では、令和元年６月に策定した「みやざきグローバルプラン」で焼酎を重要品目と位置づけ、国、ジェトロ、九州各県などとも連携して海外での焼酎の認知度向上を図りながら、県内蔵元の販路開拓・拡大を支援している。

（県内中小蔵元による外貨獲得の事例）

海外展開に積極的な落合酒造場、渡邊酒造場（以上宮崎市）、柳田酒造（都城市）、京屋酒造、小玉醸造、古澤醸造（以上日南市）、黒木本店（高鍋町）の７蔵は、平成２８年頃からバイヤー招へい事業への参加や米国でのプロモーションなどに取り組み、輸出を拡大している。



（米国での焼酎試飲会の様子）

○県産焼酎の輸出実績

年（１～１２月）	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
輸出額（百万円）	231.7	254.5	318.6	271.1	312.4	357.9	調査中

（オールみやざき営業課調査）

（５）産学金労官が連携した外貨獲得の取組への支援（企業振興課）

県外からの外貨獲得や県内経済の循環拡大など、地域経済をけん引する中核企業の育成を図るため、高い技術力や競争力があり、大きな成長が見込まれる企業を「成長期待企業」として、これまでに２２社を認定し、販路開拓や設備投資に係る補助や専門家の派遣など、産学金労官が連携した支援を実施している。

（成長期待企業による外貨獲得の事例）

- ①（株）一平ホールディングスは、国内でも事業展開している飲食店「九州パンケーキカフェ」を、フランチャイズ契約により海外（台湾、シンガポール）で店舗を展開している。

（台湾の店舗の外観）



- ② 不動産クラウドサービスを全国で展開する日本情報クリエイト(株)は、令和２年７月３１日に東京証券取引所マザーズへの株式上場で調達した資金により、人材確保や商品開発を進め、更なる販路を拡大することとしている。

（初日の終値に基づく時価総額は１５４億円）

（日本情報クリエイト（株）の本社）



(6) 森林組合による原木輸出の取組（山村・木材振興課みやざきスギ活用推進室）

木材輸出戦略協議会は、平成23年に本県の南那珂森林組合、都城森林組合と鹿児島県の曽於地区森林組合で発足し、その後、曽於市森林組合が加入し、県境を越えた4組合で原木輸出に取り組んでいる。近年増えつつある大径材や低質材を中国や韓国に輸出し、令和元年度の輸出実績は約6万m³となっており、木材価格の下支えや森林所有者の所得向上につながっている。

県では、協議会に参加する県内森林組合が行う輸出相手国の市場調査等の活動を支援している。



○輸出原木土場（志布志港）

○木材輸出戦略協議会の原木輸出実績

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
輸出量 (m ³)	4,690	6,377	23,910	36,121	40,032	40,887	54,184	62,990	59,808